



二十六聖人

令和4年5月号

(令和4年5月1日発行)

教会だより

2022. 5 No. 347

カトリック二俣川教会 TEL 045-391-6296

<http://www.futamatagawa-cc.com/>

主任司祭：ヤコブ 姜 真 求 (カン ジング)

聖母七苦

いよいよ五月となり、教会は聖母聖月を迎えました。聖母マリアへの信心はカトリック信者にとってとても重要な信心で、教会は聖母マリアを諸聖人の頭として敬い、信者の皆さんが聖母マリアを信仰の模範とするよう勧めています。その信心は色々ありますが、それがマリアの発現とか、或いは奇跡に関する信心に傾いてはいけません。むしろ、イエス様の母として、また、神様のはしためとしてどのように信仰の道を歩んだのかを学ぶ手本とすべきです。そういう意味で、先月の巻頭言にはイエス様の「架上七言」を書きましたが、今月は、聖母マリアが一生味わわねばならなかった七つの苦しみ所謂「聖母七苦」について紹介したいと思います。

1. イエス様とマリア自身について預言者シメオンから辛い預言を聞いたマリア。赤ちゃんのイエス様を神様にささげるため神殿を訪れたマリアは、そこで信心深いシメオンに会い、彼から衝撃的な預言を聞きました。それはイエス様が世の中の反対者たちの的となり、それによってマリアは鋭い剣で胸が刺し貫かれるほどの苦しみを味わうことになるということでした。それは天使ガブリエルから聞いたメシアの栄光とは全く異なることでしょう。しかし、マリアはシメオンの話を心におさめ、神様のお言葉通りになるよう、イエス様と共に自分をも神様に捧げたのです。

2. ヘロデの殺気から逃げてエジプトへ避難したマリア。ヘロデは東方から来た博士たちに騙されたと思い、兵士たちをベツレヘムに送って、二歳未満の男の子らを殺しました。その時、マリアは赤ちゃんのイエス様と一緒に、エジプトへのつらい旅をし、そこで滞在しました。その長い旅路、また、外国での生活はどれほど苦しかったでしょう。しかし、きっとマリアはその経験を通して、神様はどんな苦しい状況の中でも信じる人たちを守ってくださる方であると分かったに違いありません。

3. イエス様を見失い、神殿でイエス様を見つけるまで悲しんだマリア。 イエス様が十二歳のとき、両親はイエス様と一緒にエルサレムに上り、律法に従って神様に礼拝しました。その礼拝が終わって家路についた両親はイエス様がいなくなったことに気づき、三日間の道を辿ってようやく神殿に戻り、そこでイエス様を見つけました。その時、イエス様はマリアに「わたしが父の家にいるのは当然ではありませんか。」と言われました。イエス様はその出来事を通して、律法に従う礼拝ではなく、真心で神様に礼拝することの大事さを悟らせてくださったのです。イエス様と再会するまでのマリアは悲しんでいましたが、その新しい礼拝によって悲しみはもっと大きな喜びに変わったはずです。

4. 十字架の道行きでイエス様と出会ったマリア。 ついに、イエス様の受難の時が来ました。シメオンの預言がどのように実現されるのかをまだ知らなかったマリアは、突然のイエス様の逮捕の知らせにどれほど驚いたでしょう。マリアは十字架を担ってよろめきながら歩いておられたイエス様に、涙ながらについて行きました。そして、群衆の罵りやあざ笑いの中で、二人は出会いましたが、その束の間の出会いによって、イエス様もマリアも新しい力を得たでしょう。至る所で預言者やメシアとして歓迎されたイエス様と、その偉大な母親であったマリアは、今は罵りとあざ笑いの的となりました。しかし神様は、これからマリアがすべての罪人の母となることを示してくださいました。

5. 十字架に釘付けられて死を迎えておられるイエス様を見つめていたマリア。 イエス様の手足に突き刺される釘を打つ音は、マリアにとってどれほど大きく聞こえたでしょうか。病人をいやし、子供たちを祝福し、パンと魚を分けてくださったその手と、神様の福音に渴いている人たちへ向かったその足は、今はもう動けなくなりました。今できるのは、ただ、神様のお望みどおりになるよう、すべてを神様に任せることだけ。マリアもイエス様の十字架に釘付けられたかのようになり、神様の御心の成就を待ちました。日々の十字架を避けがちなわたしたちですが、むしろ、その十字架からわたしたちは神様の望んでおられることを見つけ、それに従う力も得ることができるのです。

6. 十字架から降ろされたイエス様の遺体を抱いたマリア。 静けさの中、イエス様を産んだマリアは、同じ静かさに包まれてイエス様の遺体を抱きました。ご自分の命を捧げて御父のみ旨を叶えたイエス様と、「御言葉通りになりますように。」という心で神様に従ったマリア。それは神様に向かう信仰のある人々が学ばねばならない「ピエタ」、すなわち、孝心なのです。

7. イエス様を葬る間、それをじっと見つめていたマリア。 神様の小羊としての使命を果たしたイエス様は、岩を掘って用意した新しい墓に葬られました。その過程をすべて見つめていたマリアの苦しみは、計り知れないほど大きかったでしょう。その心はもはやお墓のようになっ

たはずですが、しかし、マリアは神様への信仰と希望、また、愛を持って、自分の心にイエス様を納めたに違いありません。こうして、マリアは信仰のある人たちが自分の心にイエス様を受け入れ、イエス様と共に生きる者であることを示したのです。教会は様々なすばらしい言葉を使って聖母マリアをたたえています。マリアの一生は「アーメン」という言葉でまとめることができると思います。わたしたちも聖母マリアに倣い、素直な心で神様に従うことができるよう、お祈りいたします。

主任司祭 ヤコブ 姜 真求



4 月教会委員会報告

【司祭】

シノドス 5 番目の質問に関してお話をされました。詳細は 5 ページの「～シノドスへの準備のための 10 の質問より～」をご参照下さい。

委員会・各団体で自分の役割・立場・過去のやり方に素直に向き合い、顧みて未来志向で考え、信仰と愛の強い共同体になるためには何が必要かをわかちあいながら、宣教活動の力を神様からいただいて下さい。神様は生きている愛の中にいます。その愛に生かされる委員会であって下さい。

【今月の検討項目】

1. シノドス（世界代表司教会議）

テーマ「ともに歩む教会のためー交わり、参加、そして宣教」

- ・アンケート回答は 4 通提出されています。教会委員の方で未提出の方は本日中に事務所へ提出をお願いします。
- ・第三地区事務局への提出は、4 月 5 日迄です。
提出された回答部分のみを一覧にし、第三地区事務局への回答にします。

2. その他

- ・第三地区共同宣教司牧委員会開催日（7 月 10 日：二俣川教会 懇親会有無）
* 懇親会有無の判断は、4 月ないし 5 月に神父様と相談し決定致します。
- ・信徒意見：ステンドグラス制作に関する件
* 末吉町教会・戸部教会のステンドグラス制作会社に問い合わせを行いました。
標準価格：テーマ性ない場合 1 m² = 35 万円 テーマ性がある場合は標準価格より高くなる。常設ステンドグラスに賛成反対を含め、信徒の皆様の意見を聞く事が大切ですので、「信徒アンケート」のドラフトを作成し、どのように進めるかを再度検討します。
- ・信徒意見：2022 年基本方針にある信徒台帳は信徒名簿の間違いではないか？
* 信徒台帳の間違い部分の訂正作業とデータベース化を進めており、信徒名簿はそれにリンクするものです。信徒台帳の管理体制確立（更新とデータベース化）が基本方針です。

《2022 年教会基本方針より抜粋》

4. 教会組織の基盤を整備し今後を展望する。
 - 1) 信徒台帳・中長期財政計画・教会建屋の整備・管理体制を確立する。

- ・信徒意見：信徒名簿の配布を教会委員会で検討して下さい。
*個人情報保護の観点から、当面は信徒名簿の配布は行わない事とします。ただし、地区世話人が持つ地区の方の名簿更新が行われていないので、更新する必要があるのではとの意見から、地区連絡室と相談致します。
- ・桜の木の取り扱いに関して（強風による倒木等の危険性）
*台風時期の前に、再度専門家に見てもらい危険回避を最優先に判断します。
- ・サポートチーム神奈川からの依頼事項（指導司祭：鈴木真神父様）
6月11日（土）に集いが二俣川教会であります（12：00～15：45）。
使用箇所：聖堂・和室・集会室
◇集いの実務責任者と清掃・消毒の打ち合わせを行い、当日は最終確認を行って下さい。

【その他検討確認事項】

『事務所』

- ・「ウクライナ危機人道支援」救援募金は302,262円でした。皆様のご協力、ありがとうございました。

『各委員会報告』

（典礼委員会）

- ・復活祭に向けて準備を進めています。皆様のご協力ありがとうございます。
- ・5月8日（日）助祭叙階を迎えるドミニコ タン・ホアン・フィー神学生のために、主日ミサ前に祈ります。
- ・5月より、「教会学校と青年のミサ」が3週目の主日ミサ（11：00）に変更になり、地区の方々と同じミサに与ります。

（教会学校）

- ・5月15日（日）より教会学校を再開します。
中高生会：「第1・3（日）10時～」、幼児・小学生：「第3（日）10時～」共に11時ミサに参加します。

（キリスト教講座）

- ・4月16日（土）復活徹夜祭にて5人の洗礼式が行われます。
- ・3月26日（土）キリスト教講座委員会打合せを実施しました。
議題： 洗礼式・堅信式・入門講座フォローアップに関して。

（建物管理委員会）

- ・聖堂の蛍光灯をLED化する事の提案（2社からの見積もり提示：約110万円）

「提案理由」

1. 蛍光灯機器の寿命のために、蛍光灯交換時に安定器等も交換が必要なため。
2. 聖堂中央部高所の蛍光灯交換は、高所作業車が必要で交換に費用が掛かる、またミサ中の蛍光灯ちらつき防止の観点から、高所部分は年に一度、一斉交換を業者へ依頼（約10万円）。
3. 中央部以外での脚立の用いた交換作業の危険防止。
4. 電気代50%節約。

追加事項：①ウクライナ紛争の問題から価格が上昇傾向にありますので、最新の見積もりを再提示。②調光の可否を確認。 ③保障期間の明記。

（共同墓地管理委員会）：2022年の墓参はコロナ禍のため実施しません。

（青年会）

- ・青年会定例会開催日（第4日曜日15：00～）を変更します。変更日は後日報告します。
- ・和室にある青年会管理の物を5月15日までに整理します。

以上

～シノドスへの準備のための 10 の質問より～

第3回

⑤「宣教における共同責任」

皆さんの教会では、信仰教育や社会での奉仕活動の計画は、だれがどのように決定しているのでしょうか。だれが担っているのでしょうか。その人たちはどのように選ばれ、どんな養成を受けていますか。それ以外の人たちは彼らを十分に支援していますか。

（姜神父様のコメント）

シノドス 5 番目の質問「宣教における共同責任について」を考えたいと思います。宣教というのは、福音を宣べ伝える事で、内部的働き（教会内）と外部的働き（教会外）があります。教会内で行われる宣教には、信仰教育（教会学校・キリスト教講座）と入門講座があります。社会的活動（政治的関わり・科学研究・教育・社会正義・人権・環境などで行われる信者の活動）も宣教です。

教会内で学んだカトリックの価値観に基づいて活動する事が宣教になります。科学研究の面においても教会が認めていない事を、カトリック信者は信仰に基づいて識別しなければならないという事です。世の中の流れにそのまま乗っていくべきではない。守るべきものは守り、促すものは促すようにしなければならない。社会正義も大変敏感な問題です。なぜなら、社会のシステムを守るために多くの不正が行われています。情報としては隠されていても、私たちが肌で感じる事実があります。それを知った時、私たちがしっかりと考え、識別することが必要です。フランシスコ教皇様は「いのち」とか、地球を共通の「家」として発言されていますが、メディアはただそれを環境問題として表面的にしか捉えていません。わたしたちの受け止め方が大切です。教皇様の発信内容や教会の教えに対して自分の意見と異なっている場合でも、素直に受け止めてきたかを考えなければならないと思います。

私たちが反省しなければならない点は、教会でただ教理を学ぶだけでなく、自分がどのように生きるべき者なのかを学ばなければならない点です。社会のあらゆる場面・場所で、カトリック信者として識別し活動する事こそが、自分でも意識せずに宣教する事になっています。そして、これを妨げる事は何かということがこの質問の内容です。

教会学校とかキリスト教講座とか勉強会とかを設け、それを助け支える事は大事な事です。リーダー達の養成も大切で、若い人たちが自分の声、自分の意見を出し活動する事が、未来の教会を支える力となります。私たちはそれを支える必要があります。例えば、私は青年ではないので関係ないという考えは、宣教師として正しくない姿勢です。

私たち一人一人の知恵と神様からいただいた能力を必要としない分野はありません。各委員会や団体が素直に困っている事を声に出し、皆が共有し知恵を集める事も宣教です。教会で学んだことに基づき、働く事（想い・言葉・行い）が宣教活動を豊かにすると言う事がこの質問に含まれています。

教会学校だより

3月27日の「教会学校と青年とともにささげるミサ」で、2021年度の教会学校の卒業式を行いました。対象者は、小学生1名、中学生5名、高校生2名でした。当日の出席者は中学を卒業した3名と高校を卒業した1名でした。ミサの最後に、姜神父様から卒業のお祝いのプレゼントをいただき、一人一人が近況報告とこれからの新生活について抱負を話しました。それぞれこれから環境が変わる中でがんばりたいことがあるようです。そして、教会での活動も続けていきたいという言葉もあり、頼もしく感じました。



ほとんどの卒業生が幼児クラスから教会学校に通っていた子どもたちです。リーダーにとっては、ぐんと成長した卒業生の姿は感無量のものがあります。みんな頼もしく成長しています。共同体の中で育っていくことのすばらしさを改めて感じる機会になり、神さまの豊かなおめぐみを感じました。



教会学校は2020年度から今までの教会学校の活動とは違うかたちで活動してきましたが、今年度5月から少しずつ従来の活動にもどしていこうと動き出します。5月から幼児、小学生クラスは月1回、中高生会は月2回対面での教会学校を行い、その後みんなで共同体のミサに参加することにいたしました。みんなが集まり、ともに祈ることを大切にしていきたいと考えています。

教会学校リーダー F. M.

ペトロ ホワン・ドゥック・ナン神学生の 朗読奉仕者の選任おめでとうございます！

3月の月修(司教館での月に一度の司祭の集まり)のごミサの中で、ナン神学生の朗読奉仕者選任式がありました！(ナン神学生はベトナムから来られましたが、二俣川教会が日本での出身教会です。)



朗読奉仕者選任式とは、神学生が司祭となる準備段階のひとつで、典礼・ミサ祭儀において神の御言葉である聖書の朗読を任せられる式です。典礼の中で公式的に朗読することができ、指導者の指導のもとで、聖書を説明したり教えたりすることができ、また、教理を教える職務を任されることになりました。

具体的にはこれから、神学院での毎週金曜日のミサの時に、選任を受けた神学生が順番に司祭の指導のもと、「教話」というものをするそうです。教話の内容はお説教のようなものですが、タイミングが拝領祈願の後だそうです。

司祭叙階への道としては、神様の御旨に任せながら…来年は祭壇奉仕者選任式、2年後には助祭叙階式、そしてそのあと司祭に叙階される運びとなります。ナン神学生のこれからの歩みのためにお祈り致しましょう。そして今回、一緒に選任されたグエップ神学生(藤沢教会出身)、枇杷神学生(保土ヶ谷教会出身)ためにもあわせてお祈り致しましょう。

3月21日、横浜教区に新司祭が誕生しました！

『アウグスティヌス 水上健次神父様』

皆さん、おめでとうございます。神様に感謝！

水上神父様は、山手教会出身で今年、56歳になられます。人生経験も、小教区での信徒としての奉仕経験も豊富な新司祭です。



水上神父様へ、高校生＆青年からの質問コーナー

『一問一答』

Q.子供の頃、将来の夢は何でしたか？

A.一人前の大人になること。

Q.元気になりたい時に聴く曲は？

A.武田信玄のオープニングテーマ

Q.自分を動物に例えるなら？なぜ？

A.『狸』
神学論文指導の神父様のご意見です

Q.神父様を志したきっかけは何ですか？

A.素敵な神父様に会ったから

Q.神学生時代の1番の思い出は何ですか？

A.教皇様来日

Q.どんな神父様になりたいですか？

A.聴くこと、待つことができる司祭。

Q.一番好きな御言葉は何ですか？

A.マラナ・タ
(司祭叙階の聖句)



水上神父様は、保土ヶ谷教会の小教区管理者として司牧されます。これからも共に歩み、お祈りでお支えして参りましょう。

教会委員会

洗礼・堅信 おめでとうございます！

2022年4月16日、復活の聖なる徹夜祭にて、5名の方々が洗礼と堅信の秘跡にあずかることができました。受洗された皆さま、おめでとうございます。

これからも共同体のメンバーとして一緒に歩いて参りましょう。信徒の皆さまのたくさんのお祈りをお願いいたします。



マリア会通信 No. 116

主のご復活おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。今回のマリア会通信では、ご復活（イースター）に因んで世界の各国でシンボルとされている、イースターエッグを取り上げてみようと思います。

“**イースター・エッグ**（Easter egg）あるいは**復活祭の卵**とは、復活祭の休日もしくは春を祝うための、特別に飾り付けられた鶏卵である。（Wikipedia より）”



こういう文章は単なる説明ですから、特に感激もないのですが、私にはイースターエッグの思い出は大きく懐かしいものです。今のコロナの状態になる前までは、二俣川教会では1,000個近くの卵を買い、届けてもらい、たくさんの方々が手伝って和気あいあいと茹でて、冷まして、いろいろな色の薄紙で包み、まるでキャンディーのように可愛らしく仕上げていました。もちろん、そのラッピングの後で、神父様の祝福をいただいたことは言うまでもありません。

これらのゆで卵以外に、ご病人の方々の為には、特別に「病者の方への卵」と名付けられたものを、アンナ会が時間をかけ、心を込めて作っていました。これらの「卵」は、祝福をいただいた後で保管され、希望されるご家族に、ご病人の病気の一日も早い回復を祈ってお渡ししていました。食べられない「卵」は日持ちがしますから、目でも楽しめますし、きっと喜んでいただけたことでしょう。



教会という「人々が集う場所」に集ってはいけませんという今のコロナの状況には、本当に辛いものがあります。いつになったら二階の台所に信徒たちの明るい声が響き、湯気が立ちのぼり、良いにおいが立ち込めるのか……。マリア会が食の面でご奉仕できるような、忙しくも楽しい日々がまた戻ってきますようにと、一人の信徒としてもマリア会の会員としても祈るばかりです。

マリア会 F.N.

【編集後記】5月は聖母月ですね。教会の入り口のマリア像を彩る花々も、陽光に映えて更に綺麗な季節になりました。マリア様は父なる神様に取り次いでくださる方ですから、今年は特に、政治のリーダーたちがいのちを守る為の正しい決断をすることができるように、ロザリオを通して聖母マリア様の取次ぎを願いたい、と花々を見ながら思いました。（A.K. 記）